



兵庫県 川西遊技業組合
『振り込め詐欺』の発生を阻止する
地域安全街頭キャンペーン～地域安全情報
『ひょうご防犯ネット』アクセス運動～事業



川西遊技業組合
組合長
福井 梗彦さん

振り込め詐欺を防ぐために
防犯ネットへの登録呼びかけ

振り込め詐欺防止を活動の最重点目標に

単純な「オレオレ詐欺」に始まった「振り込め詐欺」だが、いまでは「還付金がある」と役所や銀行の人間を装ったものや、「キャッシュカードが犯罪に使われた可能性がある」と警察や銀行を装うもの、あるいは複数の役回りの人間が立て続けに電話をかけてくる「劇場型」など、どんどん手口が巧妙になってきている。その被害を防止するためには、何といても、いつ自分のところにそうした電話がかかってきてもおかしくないという自覚を持つことだろう。また、そうした自覚を促すための不断の啓蒙活動が地域レベルで求められる。

丘陵地帯の大規模開発により、大阪のベッドタウンとして急激な都市化が進む兵庫県南東部の川西市では、2013年6月までの上半期中に8件の振り込め詐欺の被害があり、多額の金額が詐取された。この状況にかんがみ、川西遊技業組合では、2013年度の地域貢献活動の最重点目標として、振り込め詐欺を含む悪質犯罪の防止を目的とした活動に取り組むことを決定、地域安全街頭キャンペーンを行うことにした。

その具体的な内容は、「ひょうご防犯ネット」へのアクセス加盟登録を市民に呼びかけ、防犯への意識を高めてもらうこと、振り込め詐欺、痴漢、侵入盗などの犯罪を防ごうというもの。ひょうご防犯ネットとは、2005年から兵庫県警察本部が実施している防犯情報などの配信システムで、「子どもに関する情報」、「路上強盗」、「ひったくり」、「その他の事件」、「県警からのお知らせ」といった事件発生情報、防犯情報が登録者にメールで送られてくる。その配信情報として、昨年「振り込め詐欺」、「痴漢などに関する情報」の2項目が追加されたことも、今回の事業を展開するひとつの契機となっている。

行政からの評価が高い街頭キャンペーン

街頭キャンペーンは「全国地域安全運動」の初日にあたる10月11日に、川西市内の阪急川西能勢口駅の駅前



「ひょうご防犯ネットアクセス運動実施中」ののぼりを掲げ、防犯ネットへの登録を呼びかける街頭キャンペーン



街頭キャンペーンに参加の組合員たち

ターミナルデッキ高架広場で実施した。「ひょうご防犯ネットアクセス運動実施中」ののぼりを掲げ、兵庫県遊技業協同組合(以下、兵遊協)の上着やベストに身を包んだ参加者が、防犯ネットへのアクセス・登録を促す啓発チラシや組合活動概要案内チラシなどとともに、記念品として、川西市に隣接する大阪・泉州で生産される人気の高いガーゼ織りのハンカチを通行人に手渡して配布した。ハンカチはとくに成人女性に好評で、予定を大幅に下まわる時間でキャンペーンが終了した。

このキャンペーン活動には、主催者である川西遊技業組合の組合員(役職員以下、ホール男性店長、ホール女性スタッフなど)が37名参加したほか、兵遊協事務局長、川西市のゆるキャラである「きんたくん」ほか川西市職員など、合計48名が参加した。また、キャンペーンの実施にあたっては、後援者として川西市、川西防犯協会の協力を得た。

この活動を実施した日以降、川西市で発生した振り込め詐欺の被害は1件のみである。これは行政機関や地域団体が一体となって防止活動に取り組んでいることが大きな要因だが、市内でひょうご防犯ネットへの加入者が増加しており、このキャンペーン活動が抑止の一翼を担ったものと考えられる。また、このキャンペーン実施日以降、

振り込め詐欺と思われる勧誘電話があったが、市民があやしいと気づき、被害はなかったという電話通報が関係機関に相次ぐなど、被害の発生を未然に防ぐことができたことなどからも、今回の活動が市民の防犯意識の高揚に寄与したと考えられ、行政当局からも高く評価されている。



「ひょうご防犯ネット・アクセス」登録要領記載パンフ

